

2026年度

春期全道栄養士研修大会 市民公開講座

公益社団法人 北海道栄養士会

地域包括ケア体制の充実が叫ばれている中で、この度の研修会では在宅医療、訪問栄養指導、歯科訪問診療を実際にされている先生方からご講演をいただきます。この研修会により今後の訪問診療体制の充実につながることを期待しています。

開催日時：2026年6月13日（土）

10：00～12：00（受付開始：9：30）

会場：かでの2.7大ホール

札幌市中央区北2条西7丁目（011-204-5100）

参加費無料

<https://forms.gle/PB1fTqHyujN7eKXg7>

受付はこちら⇒



（5月15日から受け付け開始です。）

- ・ 9：30～10：00 受付
- ・ 10：00～10：10 挨拶 公益社団法人 北海道栄養士会会長 中川幸恵
祝辞 北海道知事・札幌市長
一般社団法人北海道医師会会長

・ 10：15～12：00 **市民公開講座**

『厚生労働省2040年問題に向けた地域包括ケア体制、北海道版を考える』
—管理栄養士に期待すること—

講演①

「多職種連携はもう古い」連携の一步先に栄養士がするララララは何か？
医療法人財団老蘇会 静明館診療所
医師 大友宣 先生

講演②

「地域における管理栄養士の実践～在宅訪問栄養指導と栄養支援」
手稲溪仁会病院 栄養部 副部長／手稲家庭医療クリニック
在宅訪問管理栄養士 鵜飼真千子 先生

講演③

「歯科訪問診療と地域連携における当院の管理栄養士の活動について」
つがやす歯科医院
院長 斎藤 徹 先生

2026年度春期全道栄養士研修大会 市民公開講座

『当日のスケジュール』

10：15～10：45（30分）

講演①『「多職種連携はもう古い」連携の一步先に栄養士がするララララは何か？』
医療療法人財団老蘇会 静明館診療所 医師 大友宣 先生

多職種連携に関わる事業として、厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」「人生の最終段階における医療体制整備事業」、また、コロナ禍においても、多職種と協働し札幌のパンデミックを乗り越えた。連携は目的ではなく「地域づくり」を果たすための手段である。地域づくりは「文化づくり」「システムづくり」「人づくり」「エビデンスづくり」が必要である。

連携の一步先に栄養士がすること（ララララ）とは何か。

10：45～11：15（30分）

講演②「地域における管理栄養士の実践～在宅訪問栄養指導と栄養支援」
手稲溪仁会病院 栄養部 副部長／手稲家庭医療クリニック
在宅訪問管理栄養士 鵜飼 真千子先生

地域包括ケアの推進により療養の場は病院から在宅へと広がっています。地域医療において低栄養と過栄養は重要な健康課題であり、食はQOLにも深く関わるため栄養支援の重要性が高まっています。一方で、在宅医療における管理栄養士の役割は十分に認識されていません。管理栄養士には専門的視点で栄養の課題を捉え、主体的に支援を行うことが求められます。本講演では、地域における栄養支援の展開と在宅訪問栄養の実践を紹介します。

11：15～12：00（45分）

講演③「歯科訪問診療と地域連携における当院の管理栄養士の活動について」
つがやす歯科医院 院長 斎藤 徹 先生

当院では2019年に認定栄養ケア・ステーションを開設し、高齢者や有病者に対する栄養支援を行なっています。現在1名の管理栄養士が在籍しており、外来通院高齢者に対するフレイル・口腔機能低下症の評価と栄養支援、老健や特養でのミールラウンドへの参加、在宅療養者に対する栄養支援、および、近隣の更別村の高齢者に対する介護予防活動への参加など、様々な活動をしています。本講演では主に、歯科訪問診療と地域連携における当院の管理栄養士の活動について報告いたします。

主催 公益社団法人 北海道栄養士会

後援 北海道、札幌市、一般社団法人 北海道医師会、一般社団法人 北海道歯科医師会
公益社団法人 北海道健康づくり財団